

大積かっぱサミット

小地域福祉活動第一次計画



2021 年度～2025 年度
(令和 3 年度～令和 7 年度)



大積校区社会福祉協議会

ごあいさつ

大積校区では、住民みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくりを目指して、地域住民や公私社会福祉関係者が協力して地域福祉活動を進めてきました。特に、北九州市で平成5年に開始されたふれあいネットワーク活動にも平成10年度より取り組み、「自分たちの地域の福祉課題は、自分たちが解決していく」という目的の下、見守り・助け合い・話し合いの活動を中心に小地域福祉活動を進めてきました。

現在は、全国的に本格的な少子高齢化時代となり、世帯構造についても大きな変換期を迎えています。北九州市においても少子高齢化や、障害を持つ人の増加、孤立死やホームレスの問題など地域の生活課題は一層の多様化を見せており、地域福祉の重要性の高まりが必要とされています。その中で行政と民間団体との役割分担と協働の指針である「北九州市の地域福祉2021－2025」（北九州市地域福祉計画）が行政により策定され、また行政計画と協働しながら北九州市社会福祉協議会が中心となって地域社会の福祉課題を解決するため「住民ふくしの元気プラン2021～2025」市地域福祉活動第六次計画）が策定されたところです。

大積校区においても新しい課題が生まれてきており、今後地域福祉活動を進めていくためには、地域福祉を担う各種団体がもう一度地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けて話し合い、協働を生み出していく協議の場が求められています。そこで、北九州市の地域福祉計画及び地域福祉活動計画と整合性を持ちながら、住民主導により地域福祉活動を進めるため、新しい小地域福祉活動計画を策定しました。

この計画の策定にあたりご尽力いただきました本計画策定委員会委員並びにご意見をお寄せいただきました関係者の皆様に、感謝を申し上げます、ご挨拶といたします。

大積校区社会福祉協議会
会長 小田 穂積



も く じ

ごあいさつ … 1 p

第1章 計画策定にあたって … 2 p

- 1 計画の性格
- 2 計画の期間
- 3 計画の策定経過

第2章 大積校区の現状と課題 … 3 p

- 1 地域社会の動向
- 2 地域の福祉課題

第3章 計画体系 … 4 p

- 1 基本理念
- 2 基本目標
- 3 実施項目（体系図）
- 4 重点実施項目

第4章 計画の推進 … 7 p

- 1 計画の承認と周知
- 2 計画を推進するための体制
- 3 第2期計画の策定

参考資料 … 8 p

- 1 策定委員会名簿
- 2 策定委員会での協議事項



第1章 計画策定にあたって

1 計画の性格

(1) 住民発信の行動計画

この計画は、大積校区の様々な福祉課題を解決するために、住民や民間団体が将来の見通しを持って計画的に活動しようとするための民間の行動計画です。

(2) 小地域の生活を支える計画

この計画は、大積校区に住む人たちの「安心・安全な生活」を支えることを活動の原点とする計画です。

(3) 北九州市及び北九州市社会福祉協議会と協働する計画

この計画は、北九州市及び北九州市社会福祉協議会の計画と連携しながら地域福祉活動を進めていく計画です。

(4) 大積校区社会福祉協議会の活動指針となる計画

この計画は、社会福祉協議会が地域福祉推進の中核的な団体としての方針や発展強化の道筋を明らかにする性格を有します。

2 計画の期間

令和3年度～令和7年度までの5ヵ年とします。計画の期間中、地域を取り巻く状況に大きな変化があれば、見直しを行います。

3 計画の策定経過

大積校区では、地域福祉活動に取り組んでいる関係機関・団体等からの意見を踏まえ、民間の地域福祉に関する計画を策定するため、大積校区小地域福祉活動計画策定委員会（愛称：大積かっぱサミット）を設置しました。令和2年11月11日に立ち上げた同委員会において、13名の委員により5回に及ぶ協議の上、大積校区小地域福祉活動計画を策定しました。（参考資料をご参照ください）



第2章 大積校区の現状と課題

1 地域社会の動向

大積校区の概要（令和3年3月現在）			
人 口	3,845人	小 学 校	大積小学校
世 帯 数	1,938世帯	中 学 校	東郷中学校
高 齢 化 率	40.5%	活 動 拠 点	東郷市民センター
福 祉 協 力 員 数	32人	民生委員・児童委員数	7人
高齢人口 65 歳以上	1,539人	地域包括支援センター	門司 1
その他社会資源等	居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、介護老人保健施設、スーパー、 ルンビニー保育園、大積校区放課後児童クラブ、 黒川駐在所、郵便局、もじ少年自然の家、公民館、公園、 天疫神社、水天宮、貴布祢神社等		

大積校区は、門司区の東南部に位置し、門司区内で3番目に広い校区です。西には風師山を配し、東は周防灘を望む豊かな自然にあふれています。まち並みは東西に長く、春日、高砂、黒川、大積、喜多久の5地区から構成されています。

校区内のバス路線は主要線に1路線のみで、高齢者の多くはバス停まで、10分～30分近く歩かざるを得ないため、高齢化が進むと外出が困難になってきます。

校区内には『殿墓』『水天宮』『海御前』など平家ゆかりの史跡やかっぱ伝説等が残されており、古き歴史を感じられます。また、『高砂太鼓と平家踊り』、『大積神楽』などの伝統的な行事が継承されています。

◆地域の良いところ

① 自然が豊か

- ・海・山・川がある
- ・山中川と奥畑川にはホタルが乱舞する
- ・大積干潟の希少生物（グボハゼ）
- ・散歩に良いコースがある

② 人が良い

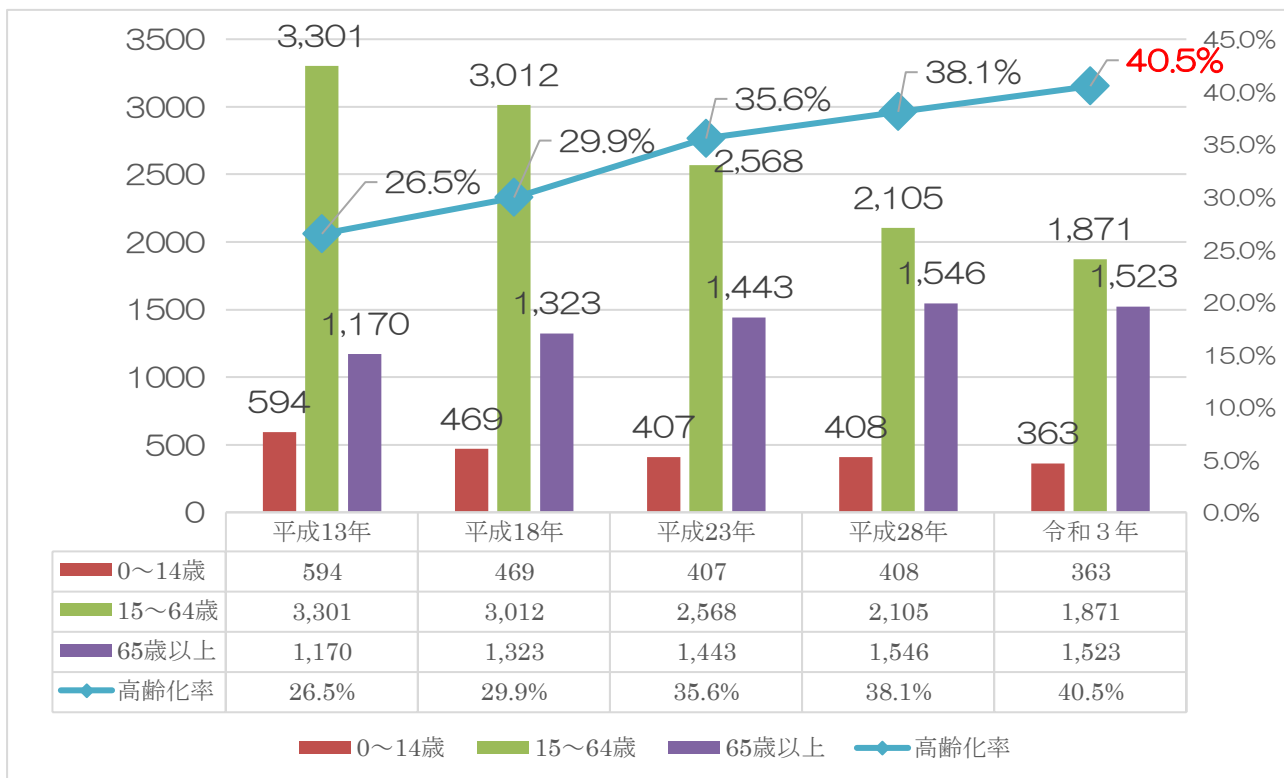
- ・全世代の仲が良く、助け合う
- ・公民館が憩いの場
- ・子どもたちが元気
- ・子どもたちが年長者に労りの気持ちがある

③ 環境が良い

- ・校区の警察官が親切
- ・安全安心なまち
- ・公害や騒音が少ない
- ・ゴミがなく、出し方も丁寧なまち
- ・高速道路が近く便利
- ・野生の動物に会える



2 大積校区の人口動向（住民基本台帳より）



【表1】大積校区 年齢別人口の推移

- ① 表1では、この20年間で、高齢者数は200人の増加し、0歳～14歳の人口と15歳～64歳の人口は1,102人と大幅に減少しています。このことから、高齢化率が進んでいる要因と考えられます。

【表2】大積校区 1世帯当たりの人口比

平成13年3月			令和3年3月		
世帯数	人口	1世帯当たりの人口	世帯数	人口	1世帯当たりの人口
2,118	4,804	2.27人	1,915	3,757	1.96人

- ② 表2では、ひと世帯の人数が2.27人から1.96人となり、一人暮らしの世帯が増えている事がわかります。

3 地域の福祉課題（及び小地域福祉活動の課題）

- ① 校区の高齢化率は40.5%と北九州市の平均（36.8%）より高く、高齢者の独居や高齢者世帯が急増しています。福祉活動を進めていくうえで、災害発生時等支援が必要な世帯の情報が充分でなく、支援が届けづらいという現状があります。
- ② 交通機関はバスのみで本数も少ないため、マイカーでの外出が出来なくなったときや足腰が弱ってきたときに、買い物や外出に困る世帯が増えていきます。

第3章 計画体系

1 基本理念「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」

大積校区では、子どもから高齢者まで、障害のあるなしに関わらず、誰もが住み慣れたところで安心して生活できるまちにしたいと願っています。そこで「住民主体」と「地域共生社会の実現」という2つの考え方を基礎として「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」という言葉を計画の基本理念として、計画を推進していきます。

2 基本目標

（１）福祉の風土を広げ、地域の困りごとに気づく力を高めよう～見守りの仕組みの充実～

複雑・多様化する困りごとに気づき、受け止める見守り活動や場づくり（サロン活動など）の推進を図るとともに、地域住民の新たな参加の機会を生み出すための福祉教育や広報啓発を行います。

（２）住民、関係機関・団体のネットワークで、困りごとを話し合おう ～話し合いのしくみの充実～

地域の困りごとを共有し話し合うしくみの充実に取り組むとともに、多様な困りごとに対応できるよう、様々な関係機関・団体の参画促進を図ります。

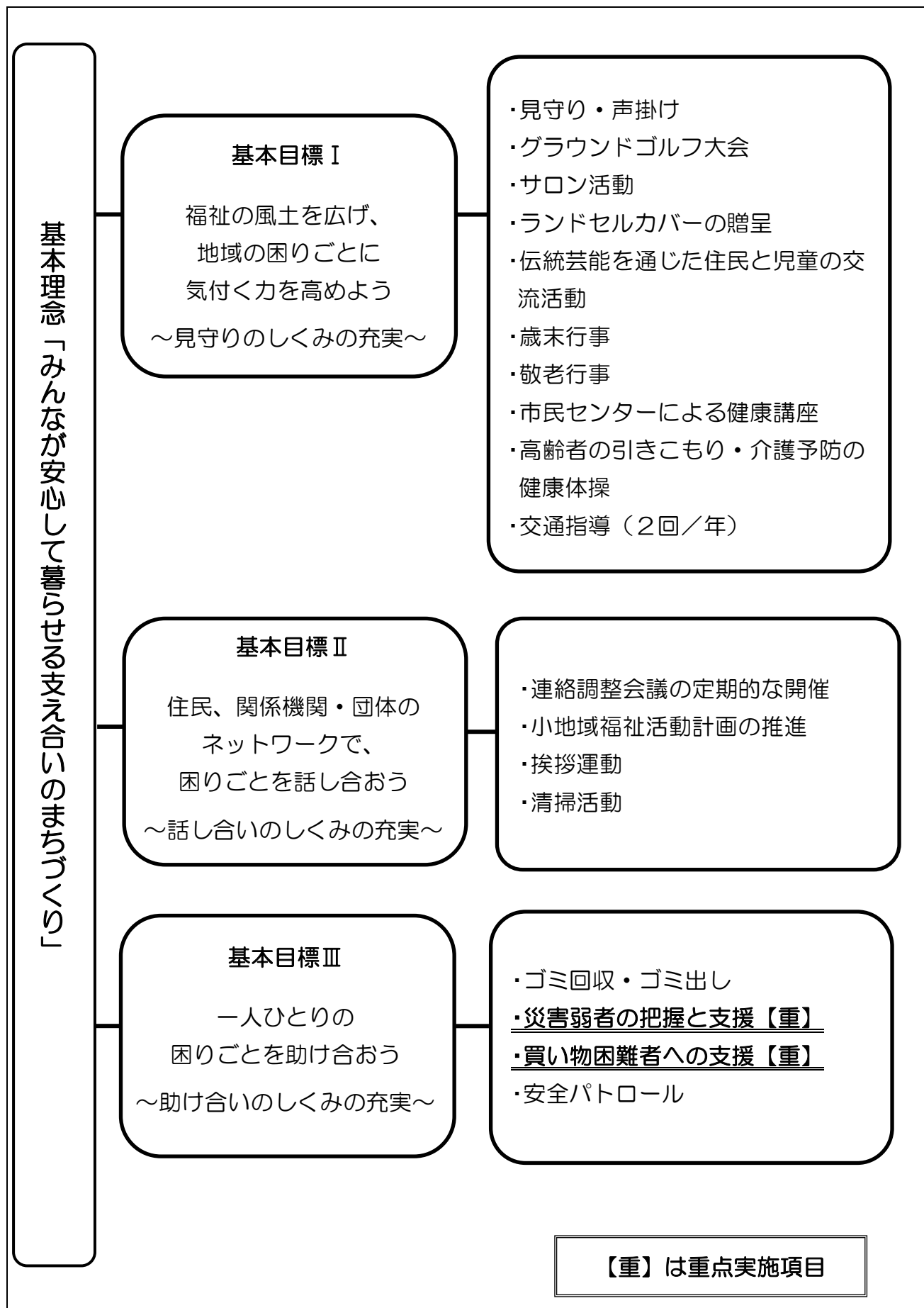
また、話し合いによって共有した困りごとを地域の課題として捉え、より多くの住民や関係機関・団体が協働して解決できるよう、小地域福祉活動計画の策定を推進します。

（３）一人ひとりの困りごとを助け合おう ～助け合いのしくみの充実～

一人ひとりの住民や関係機関・団体が持つそれぞれの強みを活かし、災害発生時の弱者への支援や買い物困難者への支援等の充実を図ります。



3 実施項目（体系図）

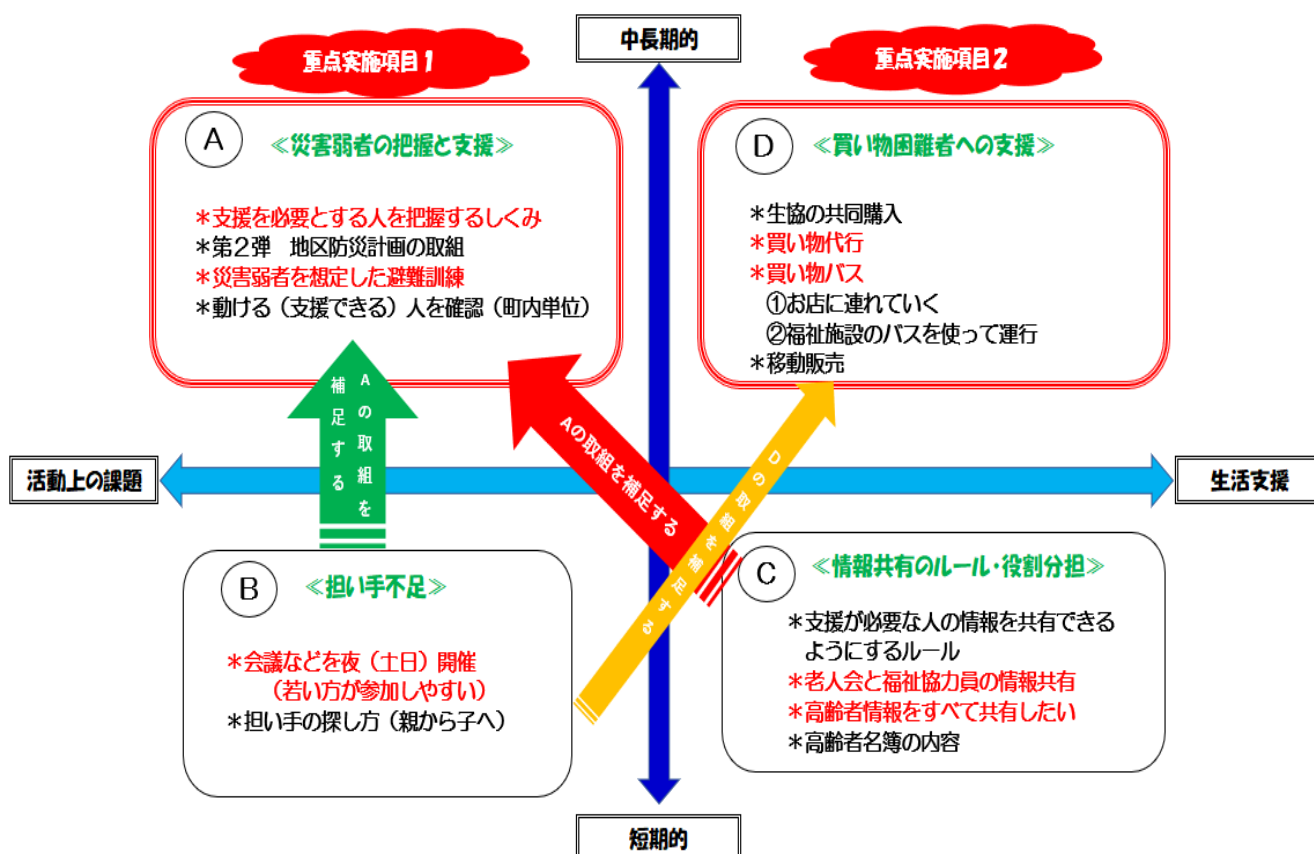


4 重点実施項目

重点実施項目 (中長期目標)	① 災害弱者の把握と支援 ② 買い物困難者への支援							
短期目標	会議等は、夜や土日開催しよう (若い世代が参加しやすい環境づくり)							
1 課題背景及び現状								
① 高齢者世帯の増加に伴い、支援を必要とする世帯の情報共有が充分でないことから、災害弱者の把握を行い、支援するしくみづくりの必要性が高まっています。								
② 校区内の唯一の公共交通機関であるバスの便が少なく、またバス停までが遠いため、さらに高齢化が進むと生活必需品の買い物や通院等の外出が困難になることが予想されます。								
2 活動の方針・目標								
① 支援を必要とする世帯の情報を各団体と共有して把握します。そのうえで、校区内の危険個所や避難経路などを確認し、災害時の支援を必要とする人を想定した避難訓練を実施します								
② 買い物や外出等の地域のニーズを把握し、安心して生活が送れるように支援活動に取り組んでいきます。								
3 段階的な取り組みの年次計画								
取り組み内容		連携する 機関	R3	R4	R5	R6	R7	備 考
① 災害弱者の把握と支援	各団体の所有する 情報共有とルール づくり	・社協 ・民生委員 ・まち協 ・老人クラブ	➡					
	災害時要支援者の 名簿作成と緊急連 絡先の作成		➡					毎年更新
	危険個所・避難経 路などの調査			➡		➡		隔年で実施
	防災マップの作成	・社協 ・民生委員 ・まち協 ・老人クラブ ・市民センター ・行政		➡		➡		隔年で更新
	災害時の役割分担 と支援体制づくり				➡		➡	隔年で見直し (HUG、DIG の実施)
	避難訓練の実施		➡					毎年実施 (校区全体)



重点項目イメージ図



取り組み内容		連携する機関	R3	R4	R5	R6	R7	備考
② 買い物困難者への支援	買い物支援ニーズの把握と検討	・社協 ・民生委員 ・まち協 ・市民センター ・行政	➡					アンケートの実施
	買い物支援方法検討			➡				
	買い物支援校区への視察			➡				
	買い物支援実施				➡			

第4章 計画の推進

1 地域への計画の承認と周知

- ① 大積校区社会福祉協議会総会等を通じた社会福祉協議会活動者への計画の承認と周知
 - ② 計画の実施項目を進めていく上での関係機関・団体への周知・協力依頼
 - ③ 計画書概要版の配布等を通じた校(地)区住民への周知
- 等、計画を推進していくために、計画の広報活動を行います。

2 計画を推進するための体制

(1) 小地域福祉活動計画推進委員会の設置

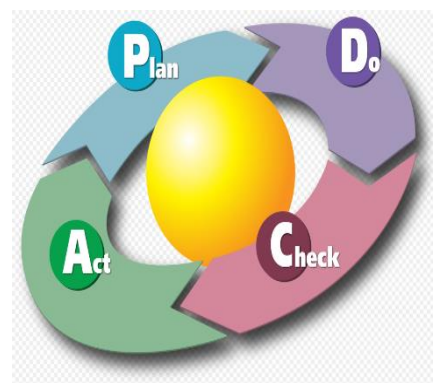
計画を推進していくために大積校区小地域福祉活動計画推進委員会を設置し、計画の進行管理を行います。

- ① 関係機関・団体との連携
- ② 計画内容の具体的な実施方法
- ③ 進行管理の実施

等について、委員会では協議を進めていきます。

(2) 計画の進行管理

大積校区大積かっぱサミット推進委員会を年3回程度開催します（当年度の事業推進の確認、年度内における中間確認、次年度の事業確認、また必要に応じて開催）。委員会では、PLAN（計画立案）DO（実行）CHECK（点検・評価）ACT（改善）というPDCAのサイクルを回しながら、計画内の各実施項目の進捗状況を把握し、うまく進行していない場合には、その原因を明らかにし、問題への対策を立て、その対応策を実施します。



(3) 計画の評価

計画期間の中間時点では計画全体の間見直しを、最終年度には総括評価を行います。

3 第二次計画の策定

第一次計画の推進状況を踏まえて、第二次計画の策定期（計画第4～5力年度）には新しく第二次計画策定委員会を設置し、計画策定に向けて協議を進めていきます。



【参考資料】

1 大積かっぱサミット委員名簿

	氏 名	所属団体	役職		
1	小田 穂積	大積校区社会福祉協議会	会長	委員長 オカッパ	
2	木村 広子	大積校区福祉協力員 春日地区リーダー		K カッパ	
3	能美 敏雄	大積校区福祉協力員 高砂地区リーダー		トシ坊カッパ	
4	古小路 明美	大積校区福祉協力員 黒川西地区リーダー		あふろカッパ	
5	右田 はる	大積校区福祉協力員 黒川東地区リーダー		ハールカッパ	
6	玉江 薫	大積校区福祉協力員 大積地区リーダー		K T カッパ	
7	早野 堅三	大積・柄杓田地区民児協 民生委員・児童委員	会長	けんぞう カッパ	
8	今村 伸夫	大積・柄杓田地区民児協 民生委員・児童委員		ノブカッパ	
9	吉積 英夫	老人クラブ連合会	代表	ひでカッパ	
10	高瀬 由美	東郷市民センター	館長	ゆーみん カッパ	
11	重岡 等	まちづくり協議会 青少年育成協議会	副会長 会長	しげカッパ	
12	田崎 京子	まちづくり協議会 健康推進委員の会	副会長 会長	副委員長 キコカッパ	
13	早野 廣美	まちづくり協議会婦人部	会長	ひろカッパ	

※オブザーバー

1	北九州市社会福祉協議会 門司区事務所
2	門司区役所保健福祉課



2 大積かっぱサミットでの協議事項

回	開催日	主な協議事項
1	令和2年11月11日 19:00~20:30	第1回 策定委員会 ・計画策定の趣旨説明 ・校区の取り組みの洗い出しと整理
2	令和2年12月9日 19:00~20:30	第2回 策定委員会 ・地域の課題の確認と整理
3	令和3年3月10日 18:30~20:00	第3回 策定委員会 ・既存の取り組みと課題の突き合わせと整理
4	令和3年4月7日 18:30~20:00	第4回 策定委員会 ・重点実施項目の決定と今後の取り組みについて
5	令和3年7月14日 18:00~19:30	第5回 策定委員会 ・計画書の編集

大積かっぱサミットの様子



3 大積かっぱサミット推進委員名簿

テーマ (部会名)	氏 名	所属団体	備考
災害弱者の把握と支援	重岡 等	まちづくり協議会副会長	リーダー
	早野 堅三	民生委員・児童委員	
	能美 敏雄	高砂町地区福祉協力員リーダー（兼高砂町町内会長）	
	木村 広子	春日町地区福祉協力員リーダー	
	山本 竜次	まちづくり協議会防犯防災部会長 消防第9分団	
	野田 武志	まちづくり協議会文化スポーツ部会長	
	佐藤 智美	東郷市民センター館長	
買い物困難者への支援	田崎 京子	まちづくり協議会事務局長	リーダー
	井村 弘美	黒川東地区福祉協力員リーダー	
	石橋 貞男	大積喜多久地区福祉協力員リーダー	
	早野 広美	まちづくり協議会婦人部会長	
	吉積 英夫	大積長寿会会長	
	末村 等	喜多久町内会長	
統括	小田 穂積	大積校区社会福祉協議会会長	



★社会福祉協議会のイメージキャラクター★



『プチボザウルス』(Petit vo saurus)

Petit (プチ:ちっちゃな)

Volunteer (ボランティア)

Saurus (サウルス≡恐竜)

大積校区社会福祉協議会

〒801-0825 北九州市門司区黒川西一丁目 3-26 東郷市民センター内
TEL 093-341-1126 FAX 093-341-1126

北九州市社会福祉協議会門司区事務所

〒801-8510 北九州市門司区清滝一丁目 1 番 1 号門司区役所内
TEL 093-331-3688 FAX 093-331-5994

